

# 青森農研フラッシュ

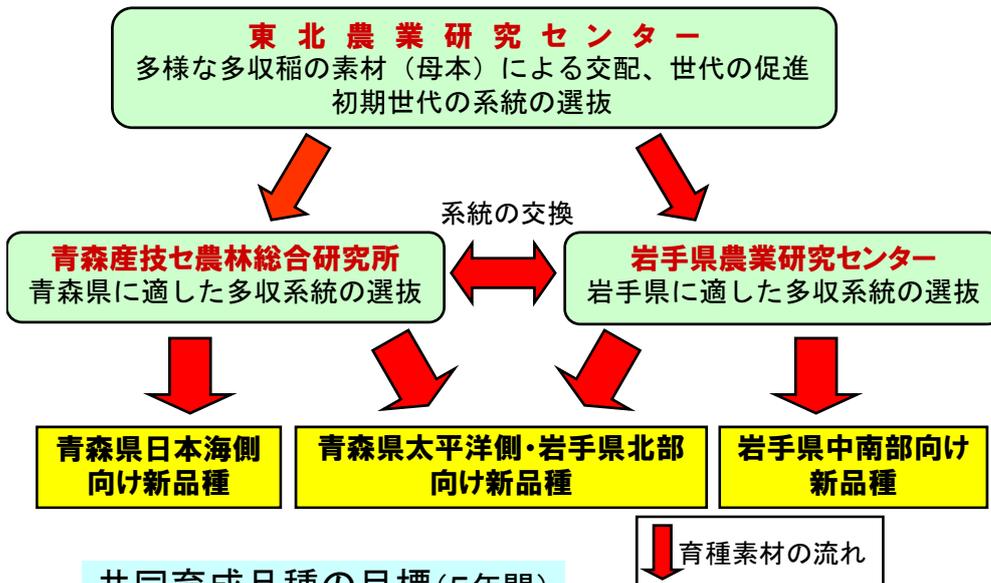
(地独)青森県産業技術センター—農林部門

TOPIC

## 東北農研、岩手県と多収稲品種を共同開発します。

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 農林総合研究所

低迷する食料自給率の向上を図る一手法として、遊休水田を有効活用した「米粉用米」、  
「飼料米用米」などの非主食用米の普及拡大が期待されています。  
このような需要に応えるため、低コスト生産が可能な多収稲品種の育成が各県で進められて  
おり、農林総合研究所では「みなゆたか」、東北農業研究センターでは「べこごのみ」、「ふ  
くひびき」岩手県では「つぶゆたか」、「つぶみのり」が育成されてきました。しかし、輸入  
小麦粉、輸入トウモロコシに対抗するためには更なる収量性の向上が望まれており、早急かつ  
効率的に品種育成を進めるために、当研究所は、東北農業研究センター、岩手県と多収稲品種  
の共同開発に取り組むことにしました。



「みなゆたか」(左)と「むつほまれ」(右)

### 共同育成品種の目標(5年間)

- ・適地: **東北地域中北部**
- ・収量: **反収(10a当たり)900kg以上**
- ・耐冷性: **“極強”以上**
- ・耐病性: **いもち耐病性“強”以上**
- ・識別性: **大粒など**

### お問い合わせ

農林総合研究所 良食味米開発部まで(Tel.0172-52-4346)



飼料用米を食べる鶏

# ニンニクづくりの基本は、良い畑に良い種子を

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 野菜研究所

ニンニクを連作すると必ずと言ってよいほど根がピンク色に腐敗する紅色根腐病が発生します。本病によってニンニクが枯死することはないので、被害は軽視されてきました。本病の発病程度が収量や品質に及ぼす影響や発生を助長する要因が明らかとなりました。

## ウイルスと紅色根腐病発病程度・収量・品質の関係

感染するウイルスの種類により紅色根腐病の発病程度が異なり、重症になると収量性も小さくなり、球割れも多くなります。

項目	ウイルスフリー株	LYSV感染株	アレキシウイルス感染株
紅色根腐病の発病程度	軽症	中	重症
収量性	大	中	小
球割れ	少	中	多

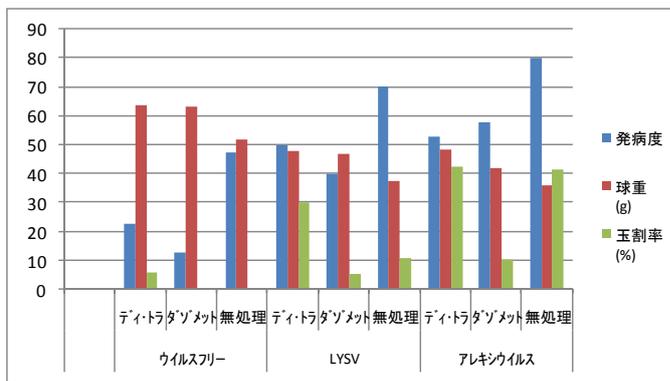
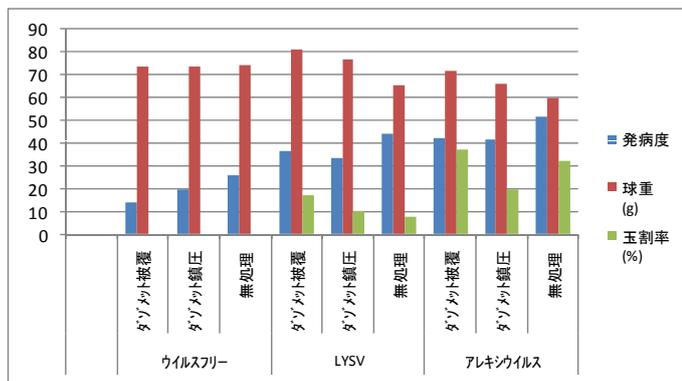


ウイルスフリー株 LYSV感染株 アレキシウイルス感染株



非土壌消毒区 土壌消毒区

## 土壌消毒が収量性や品質へ及ぼす影響



- (1) ウイルス感染株を土壌消毒した圃場に植え付けると、無消毒のウイルスフリー株を植えた場合とほぼ同程度の収量となりますが、球割れの発生は防げません。
- (2) ダゾメット粉粒剤（商品名：バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤）で土壌消毒する場合、土壌混和処理後のビニール被覆処理と鎮圧処理ではほぼ同程度の効果が期待できます。
- (3) ダゾメット粉粒剤またはメチルイソチオシアネート・D-D剤（商品名：ディ・トラペックス油剤）では、ほぼ同程度の効果が期待できます。

## お問い合わせ

野菜研究所病虫部まで (TEL0176-53-7085)

# りんご「早生ふじ」と「北紅」に対する摘果剤の効果

地方独立行政法人 青森県産業技術センター りんご研究所

りんごの摘果作業は手作業が中心であり、非常に労力がかかっています。摘果剤のNAC水和剤(ミクロデナポン水和剤85)を使用することで大幅な省力が可能ですが、品種によっては中心果まで落ちてしまうことから、品種ごとに効果を確認する必要があります。今回、「早生ふじ」と「北紅」に対する散布の効果と影響を明らかにしたので紹介します。

## 早生ふじ

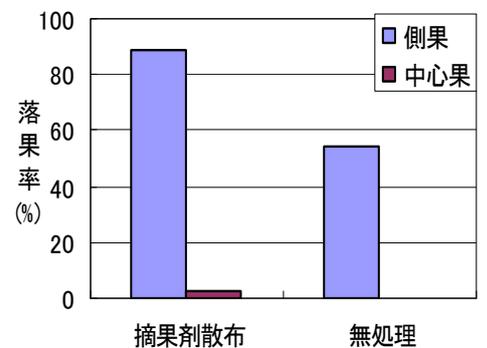
「ふじ」の満開後2週間ころの散布で、散布後20日ほどで「ふじ」と同様の摘果効果が認められ、ミクロデナポン水和剤85は「早生ふじ」に対して、摘果剤として使用できることがわかりました。



散布直後の結実状況



散布20日後の結実状況  
(中心果だけ残り、側果は落果)



「早生ふじ」の累積落果率

## 北紅

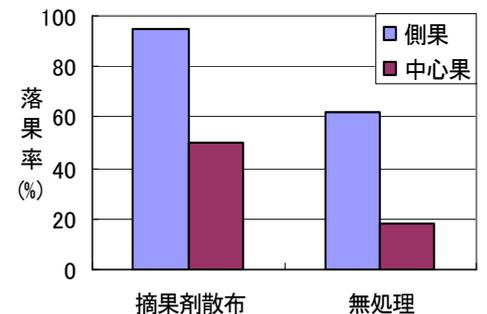
「ふじ」の満開後2週間ころの散布、満開後3週間ころの散布のいずれにおいても、散布20~30日後にかけて、側果、中心果ともに激しく落果するため、ミクロデナポン水和剤85は「北紅」に対して、摘果剤として使用できないことがわかりました。



散布直後の結実状況



散布20日後の結実状況  
(すべて落果)



「北紅」の累積落果率

ミクロデナポン水和剤85の摘果剤としての使用は、満開後2~3週間ころの1回散布となっているため、使用基準を守って下さい。

## お問い合わせ

りんご研究所育種部まで (Tel0172-53-6131)

# 「あおり木・技・人が織りなすプロジェクト展」で成果発表

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 林業研究所

新規住宅着工数の減少や大手ハウスメーカーの台頭、さらに長引く景気低迷によって、家具・建具屋さんの仕事量が激減している中、住宅依存からの脱却を目指す企業と共に新商品の開発に取り組んでいます。この成果をアスパムで開催された「あおり木・技・人が織りなすプロジェクト展」において展示発表しました。



組子家具コーナー



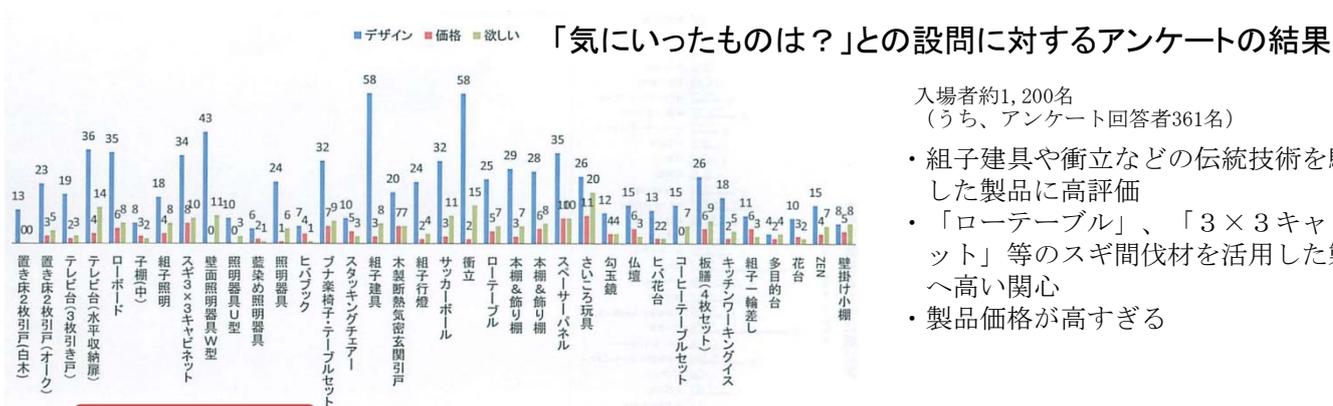
和モダンコーナー



伝統技術を駆使した組子家具



スギ間伐材によるローテーブル 2009/10/30



入場者約1,200名  
(うち、アンケート回答者361名)

- ・組子建具や衝立などの伝統技術を駆使した製品に高評価
- ・「ローテーブル」、「3×3キャビネット」等のスギ間伐材を活用した製品へ高い関心
- ・製品価格が高すぎる

## お問い合わせ先

林業研究所木材加工部（問屋町）まで（Tel017-739-8551）

## 編集・発行

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 農林総合研究所

〒036-0522 青森県黒石市田中82-9

Tel 0172-52-4346 FAX0172-52-4399

ホームページ <http://www.aomori-itc.or.jp/index.php?id=552>